

# 興元寺の山号 栄谷山と万徳山について

— 徳山地名を考える —

会員 竹島 美雅

私は、昭和六一年度の徳山市夏期市民大学「郷土の歴史」を受講した。講義がたまたま興元寺に及んだとき、講師から徳山の地名が寺の山号万徳山によるかとの説が徳山市史上に戴せられた裏話を聞いた。勿論、講師はこの説を取らないという前提のもとに。

この話を聞いたとき私は「オヤ」と思った。それは、私の家にある「常用袖鏡」(本誌E16写真)という記録集の「御領内寺社家」の項に、寺名が列記されている中に

浮米 五拾石 栄谷山 興元寺

と書いてあるのを思い出したからである。これまで興元寺の山号は、栄谷山とばかり思いこんでいたので、その後、万徳山の山号について考察、調査したことを紹介したい。

所蔵する「常用袖鏡」は、その内容からして天明、寛政の頃のものとして推定され、徳山藩士の役付の某が、日常の備用の手控に徳山藩府蔵本の諸録から必要部分だけを克明に

抜抄したハンドブックのような記録集(縦二cm横一七cm厚さ三cm)である。従って根拠性のある記録集と思われる。

徳山市史料(上)(六九七頁)の「藩史巻之五」神仏社寺之部に、

一、万徳山興元寺之事 初盛谷山とある。

右の藩史の内容は、慶安三年から明治六年迄の沿革が記述されている。これによれば藩初の山号は、盛谷山ヤカニヤと呼んだとある。これは地名の栄谷エノダ盛谷(境谷)より名付けられたものであることは明白である。

次に寛保二年(一七四二)興元寺「寺社由来」に記載されている、鐘楼門棟札写を見ると、

奉造立

周防国都濃郡徳山興元寺鐘楼之梁文

徳山城主日州刺史大江姓毛利氏就隆公親

一字鐘樓於斯山…(中略)…仍伸燕雀之賀曰

万徳門立 禪風永扇 控鐘不尽 武運

長年

万治二己亥年十一月吉辰

(以下略)

右の記銘を考察すると、万治二年に万徳門という鐘樓門が、初めて、造立されたことがわかる。この万徳という名前は、万治の万と徳山の徳を組合わせた万徳であって、万徳円満などという仏教界の言葉と付合することから付けられたとは考えられないであろうか、と私は思う。

徳山には、他に、万徳山を山号とした、

万徳山 円究寺

があったので、万徳山なる山号の寺が二ヶ寺になる。「寺社由来」の円究寺の項には

当寺開山讚譽円智大徳、寛永十一甲寅年建立、然寛文

十一辛亥四月十九日寂

とあり、建立は寛永十一年である。これを以て、興元寺より後に建立された円究寺が、これより以前からある寺の山号と同じにすることがあるであろうか。興元寺は未だ万徳山の山号を称していなかったためであろう。これを年代順

に示すと

寛永十一年(一六三四) 万徳山円究寺建立

慶安三年(一六五〇) 野上を徳山と改称

万治二年(一六五九) 初盛谷山興元寺鐘樓万徳門

創建

となる。

これを思えば、藩初は盛谷山であるため、「徳山市史」上(五六二頁)に、

徳山の地名については、興元寺の山号万徳山からとるといふ説や、阿波の徳島、備前の岡山にかたどる美称である、といふ説などがあるが、その由来は明らかでない。

とあるが、慶安三年野上が徳山と改称された当時は、興元寺の山号は、栄谷山又は盛谷山であった筈であるから、興元寺山号よりとるといふ市史の説は成立しないのではあるまいか、と私は思料する。

(昭和六一年九月一三日例会発表)